

## 第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録

イベント名	日本語：第3回 IWA ワークショッパー水道事業の規制とガバナンス
主催者	日本語：国際水協会／水道国際貢献推進協議会
開催日	2007年12月 <input type="checkbox"/> 1日 <input checked="" type="checkbox"/> 2日 <input type="checkbox"/> 3日 <input type="checkbox"/> 4日 <input type="checkbox"/> 5日
開催時間	9時15分～17時30分
開催場所	<input checked="" type="checkbox"/> 別府市内 <input type="checkbox"/> 大分県内 <input type="checkbox"/> その他
会場名	大分県立別府コンベンションセンター（ビーコンプラザ）臨時会議室2
参加人数	102名

### 開催概要（900字以内）

水道事業には、水質基準や施設性能の確保などの社会的規制と、料金を含めた経済的規制が必要です。一方、民間的経営手法による効率的事業運営を取り入れるなど、様々な規制とガバナンスの形態が採用されています。

このワークショップは、アジア・太平洋諸国の水道事業の規制とガバナンスに関する最新情報を集約し、効率的かつ持続可能な水道事業の運営に向けた考察をすすめ、より信頼性の高い水道システムの構築を支援する目的から、開催したものです。

会議は東京大学の垣田教授と国際水協会のライター専務理事が共同座長、厚生労働省健康局の山村水道課長が基調講演を務め、マレーシア、オーストラリア、シンガポール、韓国、福岡市の講師から各国の状況紹介が、アジア開発銀行と国際協力銀行からアジア・太平洋地域の途上国の状況紹介が行われました。

また、カンボジアとフィリピンからのパネリストを加えてパネルディスカッションを行い、第1回アジア太平洋水サミットへの提言を取りまとめました。

#### 【提言書の内容】

官と民のどちらが飲料水供給を行っているかに関係なく、人々の利益を守るために政府が責任を果たして適切なガバナンスを実施し、人的資源と資金を効率的かつ効果的に活用することが、ミレニアム開発目標の達成に不可欠である。

適切なガバナンスを構築するために、Water Operator Partnerships 等による事業体間協力により、知識の共有と人材育成を促進すべきである。また、ベンチマーキングと業務指標の活用は、事業改善のための重要な手法である。

望ましい規制とガバナンスの方式は、経済状況や社会構造の差によって国ごとに異なるが、次に普遍的な事項を挙げる。

1. 水道施設のサービス供与期間は長いため、長期にわたる計画策定とその実現が必要である。
2. 都市計画、農地使用、集水域管理、下水処理などの視点により水界生態系を守り、飲料水供



## 第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録

給を確固たるものとする必要がある。また、気候変動に対する適応と貢献が求められている。

3. 強力な政策決定と規制構造は、水道施設に関する長期計画の策定とその実行、成果の測定に不可欠である。



## 第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録

### 日本水フォーラムに期待すること（600字以内）

安全な飲料水の供給は、水源となる水環境の保全や十分な水量の確保など、水道事業者だけの取組では決して実現しません。

日本では、「衛生的な水を、常時、低廉な価格で供給する」目標のもと、水道関係者の努力のみならず、水資源の措置や水質の保全といった水に関する分野、財政措置や道路占用など水に関しない分野など、様々な関係者の協力によって高水準の水道が構築されてきました。

しかしながら世界に目を向ければ、いつでもどこでも、安心して蛇口から直接に水が飲める国は稀です。飲料水の供給施設さえ十分に整わない地域もあります。この状況を変えるには、当該の国・地域の関係者による強力な取組が必要なことはもちろん、気候変動などの全地球的な取組が必要な昨今では、国・地域を超えた連携が不可欠です。

今後、日本水フォーラムが様々な国・地域の水関係者と連携を深めるなかで、地球上の全ての国・地域で安全な飲料水の供給が実現するよう、強力にメッセージを発信して下さることを期待しています。

### その他（オープンイベントを開催した感想、今後の予定など、600字以内）

今回のワークショップ開催にあたり、参加者には事前の登録をして頂きましたが、海外の方も含めて当日に聴講希望があり、飲料水供給に対する関心の高さを感じました。

また、「災害や渇水の時にしか水道のありがたみを感じない」と言われるほど、安全かつ安定した給水で使用者の信頼を得ている日本の水道事業では、水道使用者の切実な要望が聴取し難い面がありますが、第1回アジア・太平洋水サミットの開催期間中には、複数の市民の方から「飲み水は命に関わる水」との声を聞くことができ、水道事業に対する期待の高さを再認識する良い機会となりました。

今回の別府でのワークショップの後、2008年2月4日には、第1回アジア・太平洋水サミットへの提言内容にも含まれていた気候変動に焦点をあて、「気候変動が水道事業に与える影響と適応」と題したワーショップを東京で開催しました。

今後も機をみて、同様の国際ワークショップを開催し、日本国内の水道関係者と海外の水道関係者の情報交換の場を設けていきたいと考えています。

